

2月の園便り



令和3年 新潟青陵幼稚園 園長 加藤 由美子

昔のことですが・・・節分の日、豆まきの前に子どもたちに聞いてみました。
 加藤「皆のお腹の中にイヤイヤ鬼とかいる？」子どもたちはちょっと考えて、
 まゆちゃん「いるいる、泣き虫鬼、泣いちゃう時がいっぱいある」
 みーちゃん「私は怒りんぼ虫、私はコマを回している時に、妹にコマを貸してあげなかった」
 たかし君「寝坊鬼です。いつも朝起きなくて、お母さんに怒られた」
 花子ちゃん「わたしは、怒りんぼ鬼、ドッチボールのときい、線があつて、ボールがあつたところが、こっちのチームだよって...まみちゃんが『違うよ、こっちのだよ』って言って・・・私が『こっち!!』って強く言ったんだ・・・」
 花子ちゃんの話がおわると、子どもたちの中から「私もそういうことある」「僕もそうだよ」という声が聞こえました。友達の話聞きながら、ああ、僕もあるな～と考えていたようです。子どもたちは次々と、僕は好き嫌い鬼、片付けない鬼、緊張鬼、イタズラ鬼、風邪ひき鬼、夜中に起きる鬼、頑固鬼・・・等と言っていました。
 子どもたちはみんな“自分のなかで直さなくてはいけない点がある”ことを十分に分かっているのです。自分のことをきちんと考えている子どもたちです。お母さんに指摘されなくても、駄目な自分を意識しているということは、私たち保育者も、お母さんも、子どもたちに直して欲しいことをわざわざ言葉にする必要がないことが分かります。
 こんなに考えている子どもたちだから、こんなふうに伝えたいのです。
 泣き虫さんは、優しいからよ、怒りんぼさんは、エネルギーがたくさんあるからなの、なかなか起きられない人は、眠りが深くて健康な証拠、好き嫌いは当然、味覚が鋭い証拠なの、片付けないのは、片付けの方法をまだ知らないから無理ないの、緊張するのは、あなただけじゃないわ、みんながそうなのよ、イタズラは...私は大好き！風邪ひきさんと夜中に起きるのは、食べ物で治るから大丈夫、言い出したらきかない頑固鬼は、いいわね、言いたいことが言えるのは、とても大事なことのよ・・・と。
 子どもの駄目な面を言葉にするのではなく、大人が見方を変えて、してあげられることをする、例えば、おねぼうさんには、起きる時間にカーテンを開けて明るくしておいたり、抱っこしてお日様の光を見るなど、工夫をしてあげられます。この子は〇〇だから、□□をしてあげる・・・と大人が頭を使って工夫をすることで解決していくことがたくさんあります。子どもが育つときに、何をしてくてもらったのか、それは、愛されて育った記憶となり、それが生涯に渡って子どもを支えていくのです。
 言葉だけでは、子どもは育たない...子どものために動いてこそです。

2月の予定

日	曜	給食	降園時間	行	事
1	月	○	2:30		
2	火	○	2:30	節分の豆まきを行います。	
3	水	○	2:30		
4	木	○	2:30		
5	金	○	2:30		
6	土				
7	日	/	/		
8	月	○	2:30		
9	火	○	2:30		
10	水	○	2:30		
11	木	/	/	建国記念日	
12	金	○	2:30		
13	土				
14	日	/	/		
15	月	○	2:30		
16	火	○	2:30	他のクラスの劇を見る日です。	
17	水	○	2:30		
18	木	○	2:30	青ばらさんの劇を見る日です。	
19	金	○	2:30		
20	土	×		のぼら劇場です。詳細は各クラスのお便りをご覧ください。	
21	日	/	/		
22	月	○	2:30		
23	火	/	/	天皇誕生日	
24	水	×	11:30	誕生会、2月生まれさんの保護者の方、ご一緒にお祝いしましょう	
25	木	○	2:30		
26	金	○	2:30		
27	土				
28	日	/	/		